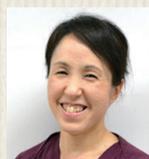


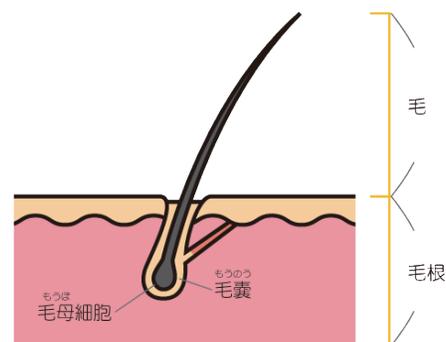
脱毛に悩む患者さんへ 自分らしく過ごせるアピアランスケア

神戸市立医療センター西市民病院
看護部 看護師長・がん化学療法看護認定看護師
大路 貴子 先生

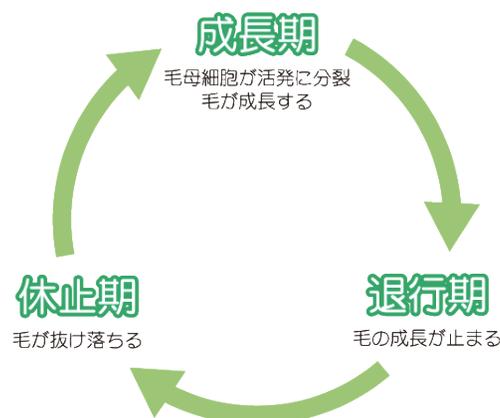


抗がん剤による脱毛とは

がん治療でよく使用される殺細胞性の抗がん剤は、細胞が分裂して増えるサイクルに作用してがん細胞の増殖を抑える薬です。そのため、細胞分裂が活発な細胞を障害します。毛の元になる毛母細胞は細胞分裂が活発なため、抗がん剤の影響を強く受けます。



毛には毛周期と呼ばれる生え変わりのサイクルがあります。毛母細胞の細胞分裂が活発になるのが成長期であるため、抗がん剤治療ではこの時期もっとも毛母細胞が障害されると考えられています。抗がん剤治療で障害された毛は成長が止まり、脱毛してしまいます。特に頭髪は約90%が成長期にあるため、一気に大量に抜けます。



脱毛・発毛の時期

毛は一定の周期で発毛→成長→脱毛を繰り返します。頭髪の成長期は2～6年ですが、抗がん剤を投与すると成長期が中断され、2～3週間後に脱毛が始まります。

毛周期は部位により異なり、頭髪以外の体毛や眉毛、まつげは頭髪より成長期が短く、休止期が長いため、ほとんどの場合、頭髪と同じタイミングで脱毛は起こりません。抗がん剤の影響を受けにくいのですが、数ヶ月間治療を続けると脱毛することがあります。

使用する抗がん剤の種類や投与量、そして個人差により脱毛の程度や発毛のスピードなどが異なります。通常、治療完了後1ヶ月半～2ヶ月で発毛が始まると言われていますが、なかには長期間にわたり発毛しない方もいらっしゃいます。脱毛後に発毛した頭髪は、くせ毛や白髪が出るなど、元の頭髪と髪の質や色が異なることがあります。